

会 議 議 事 録

1 会議名	第5回長岡市総合計画策定委員会
2 開催日時	平成27年7月23日（木曜日） 午前10時00分から午前11時30分まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>丸山 智 委員長 水流 潤太郎 副委員長 中出 文平 副委員長 有本 真由美 委員 遠藤 公一 委員 大井 盛久 委員 神林 茂 委員 鯉江 康正 委員 澤田 雅浩 委員 高野 礼子 委員 羽賀 友信 委員 樋熊 憲子 委員 古川 貞子 委員 星野 正子 委員 本田 史朗 委員 三井田 由香 委員 村山 道子 委員 山崎 和夫 委員 結城 和廣 委員 鷺尾 達雄 委員</p> <p>(事務局)</p> <p>長岡市 金子政策監 長岡市市長政策室 近藤室長 長岡市政策企画課 中村課長 鈴木課長補佐 菊池係長 渡辺主任 池田主任</p> <p>(傍聴人等)</p> <p>傍聴人 3名 報道機関 1社1名</p> <p>※6月11日付で長岡観光コンベンション協会の会長の交代に伴い、当委員会委員として山崎 和夫委員を委嘱。</p>
5 欠席者名	<p>(委員) 阿部 里奈 委員 太田 裕 委員 関 泰明 委員 年友 要子 委員 樋口 勝博 委員</p>

6 議題	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 (1)長岡版総合戦略（仮称）について (2)長岡市のこれまでの人口の推移について 4. その他 5. 閉会
7 会議結果の概要	第4回策定委員会までの経緯を踏まえ、長岡版総合戦略（仮称）の策定概要と長岡市のこれまでの人口の推移について意見交換が行われた。
8 会議資料	第5回次第 資料1 長岡版総合戦略（仮称）の策定概要について 資料2 長岡市のこれまでの人口の推移
9 審議の内容	
委員長	議事（1）長岡版総合戦略（仮称）について、事務局より説明いたします。
市長政策室長	（資料1に基づき説明）
委員長	今ほどの説明に対して、ご意見、ご質問がありましたら、お出してください。 特に具体的な施策例が5ページにあります。このあたりについて、良い点、悪い点を議論していただければありがたいと思います。
委員	5ページに掲げてある「子育て環境の充実」で、子育て環境の下、充実を図るということで、長岡市は今まで待機児童ゼロということを知っていました。ですが、旧長岡市では、子どもを産もうと思って産んでも、保育園に入る余地がなく、産む前から予約をしていたけど、やはり駄目だったとか、今現在入れなくてどうしたらいいのだろうという相談が来ます。川西から栃尾まで、朝1時間かけて子どもを連れてきて、自分は川西に勤め、また帰りは栃尾に7時過ぎに迎えに来る、そのような現状はちょっと困るのではないかと、保育園関係者で悩んでいます。 「ぐんぐん」など、いろいろと子育て施設ができていますが、そこは親と一緒に遊びに行くだけです。そうではなく、0歳から3歳ぐらいの子どもたちをちょっと預かってくれるような体制ができないのでしょうか。現実、お母さんたちは育休が終わったら仕事に行けないと、クビになります。今、おばあちゃん、おじいちゃんたちも働いています。そのような現状が、保育園関係で非常に今悩む1つですので、この「子育て環境の充実」をもう

政策企画課長	<p>少し考えていただければありがたいと思っています。</p> <p>委員からのご意見は、承知しています。今、教育委員会の子育て支援部と、政策企画課、外部の関係機関数機関で、0歳から2歳という年の頃の対策を総合戦略に盛り込めないかと、会議を予定しています。今、内々で検討を早急に詰めており、今のご意見については、総合戦略を打ち出すときには具体的な施策例の中に盛り込む努力をしているという状況です。</p>
委員	<p>5ページ右側の、「中学校の冷房設備の整備による学習環境の改善事業」に目が留まりました。市内の小・中学校の在校生の生徒数が、学校によって非常に不均衡というか、新開地で宅地造成が進んで、子どもたちがたくさん入ってきて、在校生が増えていく学校が一部に2～3校あるかと思うと、非常に減少している学校もあります。子どもたちの適正な学習環境に、在校生の数という視点において著しい不均衡があるというのを感じました。</p> <p>そんな中で、近くに中学校があるのに、通っている小学校が別の中学校区のため、ものすごく遠い所から中学校に通わなくてはいけないようなエリアがあります。従来の小・中学校区の枠組み、エリアというのを後生大事に継続していくことが、果たして子どもたちの学習環境にとっていいのかと非常に感じます。そのため、もう少し中長期的に人口動態の変化、地域の変更に基づいた中学校区の割り振りを検討していくことが必要ではないかと感じます。</p>
委員	<p>今ほど「市内中学校冷房設備の整備」が挙がっていますが、この冷房設備というのは、具体的にはただの冷房ではないということでしょうか。例えば、長岡らしさということが盛んに出てくる中で、雪を利用しての雪冷房ですとか、地球温暖化の問題が今待ったなしの状況の中で、屋上に太陽光パネルを設置するとか、そういった具体的なことも配慮されているのでしょうか。</p>
市長政策室長	<p>これは教育委員会で行うものです。具体的な環境に配慮したような冷房かどうかということまで把握していないので、また調べて委員にお答えしたいと思います。</p>
委員	<p>これだけ戦略ということで具体的な施策が出ているので、戦略として考えるのであれば、何か環境に配慮した形で、ぜひ行ってもらいたいと思います。</p>
市長政策室長	<p>わかりました。</p>

<p>委員</p>	<p>先日、娘が「夢づくり」ということでオーケストラを聴きに行き、本物の体験ができたようで、本当に感動して帰ってきました。</p> <p>資料の中に、「若者の志」という言葉が出てきましたが、今実際に、このように子どもたちに夢を伝えてくれているのだと感じています。長岡らしい政策ということで、志ということですが、長岡市はこれだけの応援を子どもたちにしてくれているんだと、実は今まで知りませんでした。そのため、長岡はこれだけ子どもたちを応援しているというのが、市民にもっともっと届くようになれば、長岡に愛着を持って、また戻ってきたいなと、そこにつながっていくのではないかと感じました。まち全体が皆さんを応援しているという声が隅々まで届いたら、素敵なのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>1つ質問と、1つ提案をさせていただきます。</p> <p>質問は、資料1の1ページ目、今回の理念に、若者をテーマに捉えたことは、長岡にとって、計画として非常に評価しています。ただ、この若者の捉え方は、子どもたち、小中学生、高校生、3大学1高専等と、学生までを対象にしているのは資料から読み取れますが、どこまでを若者として今回戦略を打つのかをもう少し明確にしていけないかと思っています。就業している若者が今何を考えているか、そういう意識調査の中で、やはり最終的な戦略があり、施策の部分で行政は計画を打つわけです。例えば今、長岡でも高校を卒業するとかなりの学生が首都圏の大学に行きます。そういう人たちにどうやって情報を出すのか、Iターン、Uターンをしてもらうために、情報をどう届けるのか、やはりそういうところからしっかり検討しないと、なかなか難しいのではないかという気がします。今、お考えがあったら、お聞かせ願いたいと思います。</p> <p>もう1つは提案ですが、今、話がありました小学校5年生にオーケストラを聴かせるというのは、芸術文化振興財団と教育委員会で12年ほど前から進めてきた事業です。これまで約6万人の子どもたちに本物のオーケストラを聴かせてきたことが評価をされ、今年の3月12日に東京フィルハーモニーと事業提携をしました。来年度の企画の中には、小学生だけではなく、中学2年生になった時に、もう1回できないかという計画も練られています。ぜひ、地方版総合戦略の中で、文化の部分の切り口として検討できないか、少し考えていただければと思います。これは予算措置を伴う話ですので、財団だけではなかなか実行できません。そういった一つ一つの具体的な施策レベルの話をするると多分収拾がつかなくなると思いますが、やはり体系的にどのようなもので「選択と集中」をするかで、細部の事業が決まってくるのだ</p>

<p>政策企画課長</p>	<p>とと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>まず、質問の若者の定義については、最終的に確固たる対象を明確にすべきなのか、今日に至るまでいろいろな議論をしています。今のところは年齢に関して明確な部分ではなく、高校生、大学生、あるいは社会人の 20 代、30 代と幅広く捉えて進んでいます。少なくとも、質問にありました、例えば東京に出た長岡で育った子への情報をどうするかについては、「ながおか・若者・しごと機構」を大きい柱として、関係機関等と今後詰める中で、情報の一元化なり発信をどうやっていくか議論を進めていますので、大切にしていきたいと考えています。</p> <p>2つ目の文化の分野において、提案が今、委員からありましたが、それについては当然のごとく、今後、検討して進めていきたいと考えています。</p>
<p>副委員長</p>	<p>少し気になるところを申し上げます。この総合戦略は、まず資料の「(6)理念に基づく基本目標」で、6つの基本目標が設定され、この基本目標を実現するために何をやるのかというつくりだと思ひます。それなのに、資料の(6)より前の(3)のところで総合戦略の主な施策が先に出てきてしまうのは、やはり計画のつくり方としてはおかしいです。</p> <p>もちろん(3)で幅広い政策分野を網羅する長岡版の総合戦略をつくるというのは構わないのですが、やはり主な施策というのは、本来、基本目標のどれにぶら下がってくるのかというつくり込みをしたほうがよいです。もちろん基本目標の1つにしかぶら下がらないということはないかもしれませんが、基本目標の1から6のどれかにぶら下がり、なおかつ、その次のクッション、もしも総合戦略の主な施策が整理されていて、羅列的に挙がっているのならば、この中のどれにぶら下がっていくかをきちんと考えた上で、この具体的な施策例を挙げていかなければいけないとすると、少なくとも今の段階で、この5ページ目のものは、どの基本目標に合致するということは示せるはずですが、少なくとも、ここに今、丸が20個ぐらいあると思ひますが、それ以外に全部で500幾つの提案があったと言われましたが、それぞれの提案が、では、どの基本目標に合致し、それからどの主な施策に対応するのかを少し整理した上で、個別具体的内容に落とすとしていき、計画を総合的に展開していく必要があります。これは総合戦略ですので、個別の戦略を言うわけではないので、そのあたりをもう少し整理して提示してもらわないと、気になります。</p>
<p>市長政策室長</p>	<p>副委員長のおっしゃるとおりです。ただ、基本目標の前に、2ページのと</p>

	<p>ここで「総合戦略の主な施策」というものを枠の中で示したのは、これを出したかったというよりは、(3) のところで「若者」という主語の未来志向的なものばかりではなく、まさに総合戦略ですので、インフラの整備や、そういった基本的なものも全て、今回の総合戦略に含むということを説明したかったが故の、例示です。</p>
副委員長	<p>それは、(3) の本文中に書いてあります。ここに、先に主な施策を書くと、それがスタートラインになって、そのあとに基本目標が出てくるのは論理的におかしいので、そこは整理してほしいと思います。</p>
市長政策室長	<p>わかりました。あともう1つ、前回示しましたが、基本目標は、若者を主体としたものを上に4つ挙げ、それを下の2つで、全世代で応援するという形にしていました。ですが、この基本目標の下にそれぞれの施策を、例えば先ほどのインフラの整備や、福祉など、そういったものを一体どこにぶら下げればいいのかは少し悩ましいところです。こじつけになるかもしれませんが、例えば基本目標5、6あたりで、そういった福祉やインフラをぶら下げようと思えばぶら下げられるかもしれませんが。そこは今、事務局でこの基本目標に全ての施策をぶら下げなくてはいけないのかどうか悩んでいます。</p>
副委員長	<p>3 ページ目の右にあるイメージ図は、よくできていると思います。基本目標5、6がインフラを整備するというでいくと、基本目標5、6が若者向けの基本目標1から4の施策以外になります。その若者の定義もいろいろあるので、その人たち向けの基本目標1から4があるとすると、それ以外のもの、基本目標5と6も含めて、若者を支えるためのもう少し大きな枠として入れ込めば、目標としては全部入ってくると思います。</p>
市長政策室長	<p>国の総合戦略の柱は4つあります。1番目が「地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする」、2番目が「地方への新しいひとの流れをつくる」、3番目が「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、4番目が「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」となっています。どちらかというと、1番目から3番目までは、若者世代、あるいは子育ての応援などです。「安心な暮らしを守る」や、「地域と地域を連携する」というような言葉が、今回設定した基本目標の中にはなく、その部分はどうか悩んでいるところです。</p> <p>また、この先1か月の中でどういう柱組みと、その下にぶら下がる施策について、どんなものを入れていくのか、まだ少し悩んでいきたいなと思って</p>

委員	<p>いますし、またご意見をいただければと思っています。</p> <p>基本目標の中に、国の4番目を何らかの形で入れておかないと、ほかの施策との結び付きができないと思います。そういう意味では、やはり必要なかなと思います。また、基本目標1から4について言えば、誰が何を考えていくのか、どういう組織の下で、どういうふうに考えていくのかが、よくわかりません。例えば高校生ぐらいまでだったら、学校に市の職員が行って「皆さん、考えてね」と言うと、小学生でも一生懸命考えます。ところが、大学生になると、大半は就職活動で大忙しなわけです。とてもじゃないけれど、まちづくりなんて考える人たちがいない。それを考えるとしても、ボランティアもやるし学園祭の準備もやるしで、学生の中の1割くらいしかいないわけです。そんな中で、大学生や、社会に出ている若者がどうやって現場へ来てくれるかという仕組みをきちっと明示していただかないと、本当にやれるのかという気がするのですが、そのあたりはどうでしょうか。</p>
市長政策室長	<p>先日の議会でも、若者の志はわかるけれども、それをいったい、どういう機会できっかけづくりをすればいいのか、どういうときに志とか誇りとか自信とかを持たせればいいのかという質問、指摘もありました。やはり、確かに大人といいますか、経験豊かな世代、現役世代が、いくらいろいろな場面を提供しても、結局、若者自らがやる気を起こしてくれなければならない。そこはやはり非常に難しいところだと思っています。それらもあり、若者会議を開かせていただいております、これから少し遅くなりますが、高校生、市内にいる大学生、あるいは学校を出て市内で働いている若い世代の方を対象に、アンケートなり意向調査のようなものもとろうと思っています。そうやって、いろいろな方面から若者の意向を調べて、そこから反映された施策を打ち出していけると、考えています。</p>
委員	<p>今、若者会議の話が少し出たのですが、市長も驚くくらい活発にいろいろな視点が出ています。今、集約中なので、それを踏まえて、またここで明示できると思います。やはり今まで、長岡の若者の意見をまじめに吸い上げていなかった。年寄り中心で動いてきたというところがあるのですが、今、意識改革が起こっていると思います。</p> <p>留学生などもこれからはグローバル戦略の中に入れていったほうがいいと思います、そちらも若者会議に入ってもらえるような流れも考えていますので、またそれが終わりましたらご報告させていただきます。</p>

委員	<p>アンケートという話がありましたが、アンケートの結果によって、軌道修正などが起こったときに、その対応ができることが、この基本目標の中に入っていないといけない。アンケートを何のためにとっているのかというときに、我々策定委員はみんな解散してしまって、それが何も意味のないということにならないように、止まること、評価すること、戻ること、それから見直すこと、そういった基本目標も入っていないといけないのではないかと思います。それがないと、無駄な行動計画になってしまうのではないかと、客観的に思いました。</p>
市長政策室長	<p>今、委員のおっしゃったような部分を踏まえて、基本目標を考えていきたいと思います。</p>
委員	<p>今、小学校、中学校では総合学習の中で、長岡の良いところというのを、それぞれの子どもが興味のある分野で見つけて、「長岡はこんな環境があるよ。こんな自然のいい所があるよ。」とやっている学校がほとんどだと思います。それがなぜか高校生、大学生になると、消えていくわけではないけれども、だんだん薄れていってしまう。もう少し学校教育と関係をつなげていくような形で取り組みができるようになれば、せつかくの小学校、中学校で地元のいい所をいっぱい見つけていたのに、そこからふっと消えてしまい、本当のコアな人間しか残らないというのは、少しもったいないという気がしました。</p>
副委員長	<p>総合戦略は、施策までつくるわけですね。その施策を、5か年間となっていますが、地方創生や人口減少対策というのは、5か年ですぐに目に見えるような成果が出るようなものではなく、かなり腰を据えた、長期間やり通す取り組みが求められていると思います。従って、ぜひ施策について総合戦略で織り込んだものについては腰を据えてやり通してほしい。そのためには、「若者」という主語の下に、具体的に誰がそれをやるのか、若者を応援するといったときにも、経験豊かな世代が、誰が若者の何をどうやって応援するのかといったところを明確にしていく必要があると思います。それがないと、きちっとやり通すということがはっきりしないと思うので、ぜひ、そのところを意識して施策のところをつくり込んでいただきたいです。恐らく、ここにいらっしゃる委員の皆さん方も、主語として登場される有力なメンバーだと思いますので、そういう方々の主語としての意見をぜひ、事務局として案をつくる段階、あるいは今後、総合戦略を策定するプロセスの中で大切にしていってほしいと思います。</p>

<p>委員</p>	<p>計画づくりは、最初の建前、大義をどう決めるかが一番大変です。非常に抽象的なところですが、これがきちんと決まっていないと、ぐらぐらします。それと、建前はいいけれど、実際どこまでできるのかという具体的な施策がくっついてこないと、途中で看板倒れになります。常に、一番最初と最後の両輪というものを、どうバランスよくつくっていくのかを悩んできた記憶があります。</p> <p>実は、施策が先に出てしまうと、本当に個人で考え方が違い、どれを優先していいかわからないところがいっぱいあります。どこで議論していくのかというのは非常に悩ましいと思っています。それが議会なのか、別の例えば審議会なのかどうなのかはありますが、そこできっちり決めないと、財源の問題もありますから、なかなかできないなというのがあります。</p> <p>それと、副委員長からも話があったように、施策やこの言葉の使い方、順番が少し乱れているという気が、私もしました。</p> <p>先ほど基本目標がつかないようなお話も出たのですが、それは少し乱暴かと思います。せっかく柱があって、それを実現するための施策があるというのが、一番単純化しているかと思いますので、そこはきっちりやってもらわないとまずいと思います。</p> <p>それともう1つ、国の政策を、昨日復習してきました。大きく分けて、国ではまちの創生と、仕事というか人の創生、この2つになりますが、これはそのように長岡市でやれるかどうかかわからないですが、少なくともまちの創生といったときは、どちらかというインフラ的な部分を強く意識しているような書き方に、私は感じました。そうすると、当然、民間の部分もありますが、行政分野が中心になっていくと思います。それから、仕事や人の創生は、割合ソフト的なものが多くあり、これは民間やNPO、いろいろな方も大いに活躍してもらい、出していってもらう、これが行政の役目じゃないかと思います。それが、先ほどの主体に結びついていけば、何とか整理できるのではないかと思います。そうすると、5ページの施策を自分なりで分けてみると、幾つか分類ができます。それが書いてあると、わかりやすい資料になったのではないかなと思います。ぜひ、そういったような形で、もう少しわかりやすく体系立てて、もう一度作り直すといいです。そういうことで、今日の資料だけでも、私は素晴らしいと思っています。</p>
<p>委員長</p>	<p>では、発言が落ち着いたようですので、次の議事「(2) 長岡市のこれまでの人口の推移について」へ移らせていただいでよろしいでしょうか。</p> <p>では、お願いします。</p>

政策企画課長	(資料2に基づき説明)
委員長	これまでの人口推移の状況について説明がありましたが、今後、事務局がさらに仕上げていく上において、ご意見がありましたら、いただきたいと思 います。いかがでしょうか。
委員	これはお願いですが、今ほど説明がありましたが、住民基本台帳の場合は 月別にあり、移動は全部フローのデータなので、フローのデータについては 何月から何月のデータですというふうに表示していただけるとわかりやす く、助かるので、よろしくお願いします。
副委員長	まず、1つ質問は、資料1の1ページ目のところに書かれているので、地 方人口ビジョンをつくらなければならないということはわかります。これは 短期的につくらなければいけないのですが、我々が本来ここで集まっている のは、総合計画をつくるため、総合計画も人口推計が必要なはずで す。そうすると、総合戦略で当然提示したものが総合計画に反映されると思 うので、そのところは慎重にしないといけないと思うのですが、そういう理解 でよろしいでしょうか。
政策企画課長	そのとおりです。
副委員長	その場合、きちんと考えなければいけないところがあって、今回は現状の ところが提示されていますが、基本的に国は、全ての計画づくりは国勢調査 に基づいて作れということになっています。今年の10月に2015年国勢調査 が行われ、その公表が一番早いもので翌年の秋です。当然、間に合わないで すが、2010年の国勢調査を基に社会保障・人口問題研究所が推計している 人口推計はかなり甘い推計で、どちらかというと中位推計か高位推計に近い です。ただ、2010年や2015年に関しては景気が悪かったこともあり、社会 増減は割と地方にとってはいい方向なので、ほとんど全ての地方の自治体 は、社人研の推計よりも少しだけ上になっています。それは景気が悪いから 人が動かないということもあってです。 それは別として、いずれにしろ国勢調査でやらなければならないというこ とがあります。2ページ目を見ると、出生届と死亡届を出さないと法律に触 れるので、出産と死亡はほぼ確実な数字です。本来は、転出届と転入届も出 さないと法律に触れますが、出さない人もいます。特に若者は出して

いないようです。そのため、この転出数と転入数は、実態を表しておらず、転出も転入もすごく小さめに出ていると思ったほうがいいです。国勢調査の時も一応転出入は出るので、そのときのものを用いて調整してもらったほうがいいと、私は思います。傾向としては、転出のほうが転入より多いというのはわかると思いますが、そのときに一つ考えてほしいのは、市では、住民票を全部扱っているので転出入に関して、何歳の人がどこから入ってきた、何歳の人がどこに出て行ったか全部わかります。そうすると、これは転出入の転出のほうが多かった、転入のほうが多かったではなく、それぞれの年齢の人が、毎年どういう動きをしているかをきちんとチェックすることができます。それから、50歳以上でUターン、Iターン、Jターンが増えていこうと今言われています。現状50歳以上になると、多分、転出よりも少し転入が大きくなっている可能性があると思います。そうすると、50歳、55歳、60歳のそれぞれの年齢層の転出入がどうなっているか、どう変わっているかをチェックしておく、次の戦略、将来推計をするときにすごく楽だと思います。

基本的には、これから総合戦略や総合計画で人口推計をする上で、出生数と死亡数はコントロールできません。実は、合計特殊出生率を上げることはできても、母数の15歳から49歳までの女性の数が減っている限りはそんなに変わらないため、いじりようがないです。そうすると、社会増減で、社会減を減らし、社会増を増やすしかありません。社会減を減らすのは若者が出て行かないようにすることです。そのところで、何かのシナリオを書いて、このくらい減らします、社会増に関しては、例えば50歳以上の人たちが、UIJターンするように考慮しますということを考えているような戦略を練る必要があります。そのときに、今2015年ですから、1980年代に20歳で出て行った人が55歳になっています。国勢調査ベースだと思いますが、資料は1980年からになっていますが、できれば1975年くらいからの年齢別人口ピラミッドと5年おきの人口ピラミッドを比較して、外に出ていった人、例えば長岡市で5年間に何千人か15歳から25歳の間にいたとすると、そのうちの何パーセントくらいに戻って来てほしいというような形で、希望的観測ではありますが、一応根拠のある形で推計しないといけません。なので、少しシナリオをつくって分析をしたほうがいいと思います。社会保障・人口問題研究所がやっている人口推計は、今までのトレンドだけで、何も政策を入れなければそうなるということなので、長岡市はこういう努力をします、努力をしたら、その部分で人口の社会減が減り、社会増が増えますという形で描いていけばよいと思います。それでも、総合計画を立てている目標値の2030年とか2035年には劇的に変わらないけれど、実はボディブローの

<p>委員</p>	<p>ように効いてきて、2050年、2070年になるとかなり人口減が緩和されるはずですが。それは推計すればわかります。そのあたりも踏まえ、現状を冷静に分析し、特に若者と50歳以上の人を分けて分析した上で、将来どういうふうにしたいかを推計してもらおうと、資料1で言っている施策と関連して、かなりきちんとできると思うので、そのあたりをきちんとやってほしいです。</p> <p>私は1ページ目の3区分による生産年齢のところを見たときに、一番注目したいのはやはり若い人です。1つは長岡市から県外に学問を学ぶために出ていった人たちが、その県外で学んだことを活かせるものが長岡にあるから、また長岡に帰ってきたいと思えるかどうかということと、もう1つは、出生率のところにも関係がありますが、やはり子育てがしやすいかどうか、子どもを産みたくなるかどうかです。前回までの会議のところで、ほかの委員からも話がありましたが、結婚できない若者が増えていることと、子育て、あと若い人が働く場所だと思います。この生産年齢の、これは国勢調査なので、15歳～64歳というくくりになっていると思うのですが、その中で、特に生産年齢の中でも次の世代を担っていく若い人の、子育ての世代のところの人口推移をもう少し詳しく知りたいです。そうすることによって、実は長岡はどんなところが弱いので長岡を出ていってしまうのか、長岡には住めないと思うのか、そこでは子どもを産みたいと思う人が増えないのかということが明確になるのではないかと思います。多分、行政のほうではそのあたりの詳しい数字も持っていると思いますが、そこを明確にさせていただいて、今後の総合計画に活かしていきたいと思いました。</p> <p>話は戻って恐縮なのですが、先ほどの総合戦略の中で、具体的な主な施策のうちに、雇用に関するものは4項目、ないしは5項目しかありませんでした。子育てに関しては、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援ということで、大きく1つだけしかうたってありませんでした。けれども、この会議に参加し、皆さんの意見を聞いている中で、やはり子育てという部分で、「子育て」とひとくくりで言ってしまうとそれだけですが、教育に関してはやはり細かいことがいろいろあると思うので、その子育ての部分の充実をもっともっと図る必要があるのではないかと、この人口の推移を見て感じましたので、そのところをよろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>市長政策室長</p>	<p>今ほどの委員の方々のお話ですが、確かにおっしゃるとおりです。各世代別、年代別の転出入のデータなども持っていますので、それらを有効に活用し、国勢調査の数値を基本としつつ、長岡市でも出せるデータを出した上で、人口推計はこれからやっていきたいと思っています。ただ、総合戦略でも人</p>

	<p>ロビジョンを出しますが、もう既に人口ビジョンや総合戦略を打ち出しているほかの自治体を見ていると、いろいろと推計が甘いとか、そういった物議をかもししているところもあります。そのあたりの情勢をよく見ながら長岡市は打ち出していきたいと思います。最終的には総合計画ではしっかりしたものが出ると思っています。総合戦略でも出しますが、よく考えながら出していきたいと思います。</p>
副委員長	<p>総合戦略で出す数字は、金科玉条のものではなく、総合戦略として出し、総合計画は10年間の基本になるため、その数字は若干軌道修正されることもあり得るということですか。</p>
市長政策室長	<p>総合計画では詳細に出す予定ですが、総合戦略では、詳細に出すかどうか悩んでいるところです。ほかの自治体も、そんなにずばり数字を出してないところもあります。</p>
副委員長	<p>国の長期ビジョンは2060年に1億人程度という、2060年をターゲットに置いた人口ビジョンを出しています。地方の人口ビジョンは、別に「2060年ターゲット」などという言葉はありません。従って、どうも今の回答をお聞きすると、いったいどのくらいのスパンで推計をするのか、それから目標設定をするのか、そのあたりも柔軟に取り扱えと、最終的に総合計画で人口推計を出すときは、かなり精緻な確定的なものを前提にして、総合計画は議論していくと聞こえたのですけれども、そう理解してよろしいですか。</p>
政策企画課長	<p>まず、大きい話として、今、国では長期ということで2060年というような、その先の部分のところまでの期間を言っていますが、現在に至るまで、国からの説明では、地方による人口ビジョンにおいては、国の期間を踏まえた中でのビジョンを打ち出せなくても、それはいいという説明があります。ですので、例えば長岡市として、一例ですけれども、2040年くらいまでを念頭に置いた人口ビジョンをつくるということであれば、それはそれでいいと思っています。</p> <p>また、両副委員長からも言われたとおり、長岡版総合戦略のベースになる人口推計も、総合計画のその先にくる人口推計の示し方も、その都度変えるということではなく、どういう形で出していくかを、関係の皆様意見を聞きながら、まとめ上げていくという作業に今後なると思っています。決して、総合戦略の部分で使ったものが総合計画の中で、もう一回見直して違うものになるというイメージは今現在持っていません。やることをしっかりやった上</p>

委員	<p>で、最後まとめたいと思っています。あとは、どこまでを示すかというところ、10年先、20年先、30年先という期間については、そこも、これから議論してまとめる中で、示し方を考えたいと思っています。</p> <p>少しお聞きしたいのですが、女性が子どもを産まないことには出生率というのは絶対に増えないわけで、子どもを産む年齢の女性の数の推移はどのようになっているのでしょうか。そういったデータが出れば、また具体的に総合戦略や、具体的な施策で、いろいろなものが変わっていくのではないかと思います。</p>
委員	<p>例えば40歳から45歳の女性が何人いて、それが5年後にどうなるか、過去の推計を調べるために全部データとして、市は持っていると思います。ただ、何もしなければ、過去の推移でいくと、減っていくというデータがあります。そうではなく、いかにして、それよりも前向きにするかというのが今回の大きな命題かと思っています。そのときに落ちる量は、ある程度やむを得ないとしても、どれだけカバーしていくか、決して甘くみるということではなく、一応、理屈を見ながらやってもらえればと思います。</p> <p>ただ、すぐに大きな効果が出てV字型に回復するというのとは一番理想ですが、これはなかなか難しいです。どれくらい具体的な効果が出るかが、頭を悩ますところかなと思います。そこから、ようやく人口推計というか、こういう努力をしますからこういうふうになりますというものが出てくるのではないかと思います。単なる推計だと本当にすぐに出てきます。</p>
副委員長	<p>現状値は、この出し方は少しわかりにくいです。1ページ目の左のものは、男女別で5歳ごとの人口ピラミッドを出せば、それで何歳から何歳の人は何人いるというのは国勢調査で全部わかります。1980年から2010年までの7本の人口ピラミッドをここにぽんと載せてくれれば、それが一番わかりやすかったかもしれません。それを集計したものがこの1ページ目の左側のグラフで、今、話があったような、15歳から49歳の推計がどういうふうに変ってきているかは、7本のピラミッドがあれば簡単にわかります。実際にはもう第二次ベビーブーム層の人たちが子どもを産まない年齢にどんどんなっていくので、男性も女性も、もう本当に子どもの数が減ってきていて、大変な状況になっているのは事実です。</p>
委員	<p>私も知りたいデータがあります。例えば、長岡市の場合、1人の女性が1人しか産まないのか、それともたくさん子どもを産むのか、そのあたりのデ</p>

	<p>一タもあると、総合戦略の具体的な施策は大きく変わっていくのではないかと感じます。先ほどの女性の数で、若い女性の数がどんどん減っているのであれば、例えば施策の中で長岡市の企業の方は、就活の女性に、女性をたくさん登用しますよとか、労働時間の管理はこんなふうにしていますよというのを売りにしてもらえます。逆に、企業側にすれば、それは1つの企業、1つの職場だけではとても難しいので、行政で何か具体的な施策を打ち出してもらい、みんなで協働して総合的にやっていくなど、そういった施策の方向性にも関わるので、そういったデータがあればいいと感じました。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>先ほど、委員の方々が言われたとおり、5歳別のものがありますので、機会を見て、資料的に出すべきものは出したいと思っています。</p> <p>今ほどの質問については、そういうデータが確かあるはずですが、今後、データを集めたいと思っています。よろしく願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>委員が言われたことは、この表の1ページ目を見ればわかります。それはどういうことかという、合計特殊出生率はそれほど大きく変化がないのに、出生率がどんどん減ってきているということは、明らかに産む人の数が減っています。この女性の数が減っているかどうかについては、これを見ればわかります。先ほどからいろいろな委員の方々がおっしゃっていますが、国勢調査については、年齢各歳別に5年おきですが全部データ取れますので、データを整理してもらえればと思います。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>今、委員が言われたことはまさしくそのとおりです。先ほどの質問については、何歳で第何子を産んだかのようなデータが確かあるはずなので、探してみます。</p>
<p>副委員長</p>	<p>それは多分、全数調査ではないので危ないです。今は、1975年の調査からもう全部廃止されていて、国勢調査でも子どもを産んだ人数などは聞いていません。昔は女性に対して、子どもを産んだことがあるかないかも全部、何人産んだかまで書くというのはありましたが、今はないので、調べようと思うと、住民票の世帯別のデータを全部1戸ずつチェックして、何歳の人で、関係は何かというのを全部チェックしないと取れないはずですが、それはすごく大変だと思います。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>今後、出典先と、どういう性格を持っているデータかを含めて、次回以降の中で示せればと思っています。少なくとも住民基本台帳などではなく、福</p>

<p>委員</p>	<p>社系の分野で、全数調査ではないと思いますので、データが持っている性格というのは、示すときには、きちんと付けて説明したいと思います。</p> <p>今、お母さん、お父さんが子どもを育てるにはどうやって環境を整えていくか、応援できるか、自分たちの力で子どもを育てていく世の中になれるかどうかということを一生懸命模索中です。</p> <p>なぜ、結婚できないかとか、どうして子どもを産まないかというのは、本当にこれは長岡に限ったことではなく、多分日本中の問題だと思っています。結局、子どもたちを見ていても、友達が結婚しました、ちょっとしたら離婚しました、バツイチです、バツ2ですなどという話が外から入ってきたときに、結婚願望とか、子どもを産んで楽しく生活をするというイメージが湧かない世の中になってきているかもしれません。全てではないですが、そういう何か悪いイメージがいいイメージよりも、今の子どもを産む世代の人たちに、少しあったり、テレビドラマでもそういうものがあったりするのが、やはり少し響いているのではないかと思います。それだけではなく、私たち子育てを応援する世代もいいことを言わなくなってきてしまったと思います。核家族になっていて姑と自分の仲が悪いのに、「仲良くしなさい」などと子どもに言ったところで、子どもは「何、言っているの」と、「親がそうではないよ」というような会話がもし繰り返されているようであれば、やはり、そういう教育や、環境をつくってきた私たちにも大きな原因があると思います。</p> <p>そのため、そういうことを払拭できるような世の中にしていこうと思っています。一人一人、知恵とアイデアを出しながら、これから少し長いかもしれませんが、中学生くらいの子どもたちは、本当に夢を持って、子どもを抱く経験を教育や子育ての場でやったりして、大変いいイメージが湧くようにはしています。そういうイメージをみんなが持つような世の中にしていかなければなりません。ただ何で子どもが少ないかとか、産めないかではなく、そういう環境をつくっているのは誰かというところを、やはり基本的に考えないと、これからも同じことが続くのではないかという気がします。</p> <p>よく子どもは背中を見て育つと言うのですが、私も背中を見せているつもりです。</p>
<p>委員長</p>	<p>その他に事務局から何かありますか。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>それでは、報告事項を2点ほどさせていただきます。</p>
	<p>1点目は、総合戦略策定後に、次期総合計画策定に移行していきますが、</p>

<p>委員長</p>	<p>総合計画の中で、「土地利用構想」という分野が非常に専門的な分野です。そのため、今後、この委員会の数名の委員の方と、必要があればほかの方々にお願ひし、この委員会の中の一つの専門部会として「土地利用部会」を設置する方向で、今、進めさせていただいています。委員の皆様からはご承知おきいただき、近々、何名かの方には就任の依頼をさせていただければと思っていますので、土地利用の面につきましては、専門部会を設置して議論させていただければというところです。</p> <p>2点目の報告です。地方創生を捉えた市民アンケートを、今月実施させていただいています。以前、報告させていただいたものです。規模は、市内全域で11地域、年齢を考慮して無作為で抽出した5,000人にご協力いただく中で実施しています。いずれまとも次第、この委員会の中でも報告させていただきたいと思います。</p> <p>報告事項は、以上2点でございます。</p> <p>ありがとうございます。今の報告について、何かご質問ございませんでしょうか。</p> <p>なければ、議事全体を通しまして、これまでの各委員からの発言や事務局からの説明について、意見がありましたら、発言いただければと思います。</p> <p>ないようですので、本日予定していた議事はこれで終了といたします。それでは、進行を事務局にお返しいたします。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>(第6回の開催日程について報告)</p>
<p>政策企画課長補佐</p>	<p>本日は、大変ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、第5回長岡市総合計画策定委員会を閉会いたします。</p>